

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
形態検査学特論	3年次	必修	講義	2単位（60時間）	小菅 優子 ※
授 業 概 要					
血液検査学、病理組織検査学、寄生虫学とその基礎となる科目について、関連性を理解しながら総合的に判断できることを目的とする。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な血液疾患について説明できる。 ・解剖及び病理学の知識と代表的な検査方法について説明できる。 ・代表的な寄生虫疾患について説明できる。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1-10	血液検査学(1)	赤血球系疾患についてのまとめ			五十嵐康之 ※
	血液検査学(2)	白血球系疾患についてのまとめ			
	血液検査学(3)	血小板系疾患についてのまとめ			
11-20	病理組織検査学(1)	病理学についてのまとめ			小菅 優子 ※
	病理組織検査学(2)	標本作成法のまとめ			
	病理組織検査学(3)	染色法、細胞学的検査法のまとめ			
21-25	寄生虫学(1)	線虫類、吸虫類についてのまとめ			小林 浩二
	寄生虫学(2)	条虫類、原虫類についてのまとめ			
	寄生虫学(3)	検査法のまとめ			
26-30	解剖生理学				竹内 法子
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の既出題問題を中心に講義を行う。 ・予習及び復習により理解を深めること。 					
評 価 方 法					
<p>・国家試験出題基準に準ずる問題200題を定期試験とし、その得点率により評価する。なお、試験科目及び出題数は次の通りとする。</p> <p>臨床検査総論（検査管理総論及び寄生虫学を含む。）から20題、臨床検査医学総論（臨床医学総論及び医学概論を含む。）から10題、臨床生理学から26題、臨床化学（放射性同位元素検査技術学を含む。）から32題、病理組織細胞学から28題、臨床血液学から18題、臨床微生物学から22題、臨床免疫学から22題、公衆衛生学（関係法規を含む。）から10題、医用工学概論（情報科学概論及び検査機器総論を含む。）から12題とする。</p> <p>・定期試験は3回実施し、各回の成績は総合的に（1回目20%、2回目30%、3回目50%）評価する。なお、小テストの平均点を特論単位認定試験総合成績に加味（小テスト20%、特論単位認定試験80%）する。</p>					
先 修 科 目					
基礎分野並びに専門基礎分野の医療関係法規概論、看護学概論、情報科学、専門分野の臨床病態学特論、生物化学分析検査学特論、病因生体防御検査学特論、生理機能検査学特論、チーム医療演習、検査総合管理学特論、臨地実習を除く必修科目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕</p> <p>各科目担当教員指定の教科書及び配付資料を使用する。</p>					